

ダンスを主催した パーティーの猫

昭和五十六年十一月五日号

いつの頃から、平垣の金正寺に飼われていた年とつた大きな猫は、近郷の猫をあつめて、夜な夜なダンスパーティーを主催したという話が伝わっています。



平垣の金正寺という古い寺に、年とつた大きな三毛猫がいました。その三毛がボスになって毎晩中島村の茅藪場で、あたりの猫をあつめ、ダンスパーティーをひらいているのは、はつきり見たのは、片宿のある百姓のおじいさんでした。

ある晩、風呂場の手拭いにどろがついており、かける場所も違っていることに気づきました。

おじいさんは寢床へもぐつて眠ったふりをしていますと、真夜中になつて飼猫のタマガ、手拭いを口にくわえて出かけるではありませんか。

おじいさんは、不思議に思つてタマのあとをそつとつけてみました。それとも知らない猫は、畑をぬけ、田んぼを通つて、中島村の茅積場まで来ました。

そこには何十匹という猫が集まつて、てんでに手拭をあねさんかぶりにして、後足で立つてゆかいそうにおどつているではありませんか。そのうち猫たちが一斉におどりをやめて、大きな猫を迎えました。手拭をイナセにかむつて、ゆうゆうとやつてきたのは、金正寺の猫だったのです。それから、夜明けまで猫たちがあどり狂つたということです。

代々語りついできた

山本孝一さん(平垣町)

昔は、いろんな話を親から子へ語り聞かせ

てきたもんだ。この話もそうした一つとして、代々伝わつてきたのさ。

まあ特にいつの頃ということではないが、何とおもしろい話だね工。

そういえばこの頃は、親が子供に語り聞かせるということがないようだね工。味気ないじゃないかね。



金正寺の山門